

受注者各位

### 公共工事設計労務単価の改定に伴う特例措置等の実施について

平成 26 年 2 月から適用する公共工事設計労務単価(以下「新労務単価」という。)が、本年度当初の労務単価(以下「旧労務単価」という。)に比し、全国平均で 7.1 パーセント上昇したことを受け、国土交通省が講じた労務単価の運用に係る特例措置等に準じ、当部においても、次の措置を実施することとしたのでお知らせします。

### 記

#### 特例措置について

#### 1 措置の内容

新労務単価の決定に伴い、2に定める工事の受注者は、「青森市工事請負契約標準約款(平成 24 年 3 月 30 日青森市公告第 32 号)」第 52 条の定めに基づき、旧労務単価に基づく契約を新労務単価に基づく契約に変更するための請負代金額の変更の協議を請求することができる。

#### 2 対象工事

平成 26 年 2 月 1 日以降に契約を締結する工事のうち、旧労務単価を適用して予定価格を積算しているもの。

#### 3 請負金額の変更

変更後の請負代金額については、次の方式により算出する。

変更後の請負代金額 = 新労務単価により積算された請負工事対応額 × 当初契約の落札率

#### 4 請求期限

受注者からの請負代金額の変更の協議の請求期限については、対応の通知のあった日から 14 日以内とする。対応の通知のあった日とは、監督員から対象受注者へ通知した日とする。

## インフレスライド条項の適用について

### 1 適用対象工事

平成 26 年 1 月 31 日以前に既に契約を締結している工事のうち、運用基準に定める残工期が基準日から 2 ヶ月以上ある工事

### 2 賃金水準又は物価水準の変動による請負代金額の変更額(スライド額)の考え方

スライド額は、当該工事に係る変動額のうち請負代金額から基準日における出来形部分に相応する請負代金額を控除した額の 100 分の 1 に相当する金額を超える額

上記により請負代金額が変更された場合は、元請企業と下請企業の間で既に締結している請負契約の金額の見直しや、技能労働者への賃金水準の引上げ等について、適切な対応をお願いします。

## 賃金等の変動に対する工事請負契約標準約款第 25 条第 6 項の運用について

### 1. 適用対象工事

- (1) 標準約款第 25 条第 6 項の請求は、2. (3) に定める残工期が 2. (2) に定める基準日から 2 ヶ月以上あること。
- (2) 発注者及び受注者によるスライドの適用対象工事の確認時期は、賃金水準の変更がなされた時とする。

### 2. 請求日及び基準日等について

請求日及び基準日等の定義は、以下のとおりとする。

- (1) 請求日：スライド変更の可能性があるため、発注者又は受注者が請負代金額の変更の協議（以下「スライド協議」という。）を請求した日とする。
- (2) 基準日：請求があった日から起算して、14 日以内で発注者と受注者とが協議して定める日とし、請求日とすることを基本とする。
- (3) 残工期：基準日以降の工事期間とする。

### 3. スライド協議の請求

発注者又は受注者からのスライド協議の請求は、書面により行うこととし、その期限は直近の賃金水準の変更から、次の賃金水準の変更がなされるまでとする。

### 4. 請負代金額の変更

- (1) 賃金水準又は物価水準の変動による請負代金額の変更額（以下「スライド額」という。）は、当該工事に係る変動額のうち請負代金額から基準日における出来形部分に相応する請負代金額を控除した額の 100 分の 1 に相当する金額を超える額とする。

- (2) 増額スライド額については、次式により行う。

$$S_{\text{増}} = [P_2 - P_1 - (P_1 \times 1/100)]$$

この式において、 $S_{\text{増}}$ 、 $P_1$  及び  $P_2$  は、それぞれ次の額を表すものとする。

$S_{\text{増}}$ ：増額スライド額

$P_1$ ：請負代金額から基準日における出来形部分に相応する請負代金額を控除した額

$P_2$ ：変動後（基準日）の賃金又は物価を基礎として算出した  $P_1$  に相当する額 ( $P = \sum (\alpha \times Z)$ 、  
 $\alpha$ ：請負比率（落札率）、 $Z$ ：官積算額)

- (3) 減額スライド額については、次式により行う。

$$S_{\text{減}} = [P_2 - P_1 + (P_1 \times 1/100)]$$

この式において、 $S_{\text{減}}$ 、 $P_1$  及び  $P_2$  は、それぞれ次の額を表すものとする。

$S_{\text{減}}$ ：減額スライド額

$P_1$ ：請負代金額から基準日における出来形部分に相応する請負代金額を控除した額

$P_2$  : 変動後（基準日）の賃金又は物価を基礎として算出した  $P_1$  に相当する額（ $P = \sum (\alpha \times Z)$ ）、  
 $\alpha$  : 請負比率（落札率）、 $Z$  : 官積算額

（４）スライド額は、労務単価、材料単価、機械器具損料並びにこれらに伴う共通仮設費、現場管理費及び一般管理費等の変更について行われるものであり、歩掛の変更については考慮するものではない。

## 5. 残工事量の算定

- （１）基準日における残工事量を算定するために行う出来形数量の確認は、数量総括表に対応して出来高確認を行うものとする。
- （２）基準日までに変更契約を行っていないが先行指示されている設計量についても、基準日以降の残工事量についてはスライドの対象とすること。
- （３）現場搬入材料については、認定したものは出来形数量として取り扱うこと。  
また、下記の材料等についても出来形数量として取り扱う。
  - ・工場製作品については、工場での確認又はミルシート等で在庫確保が証明できる材料は出来形数量として取り扱う。
  - ・基準日以前に配置済みの現地据付型の建設機械及び仮設材料等（架設用クレーン、仮設鋼材など）も出来形の対象とする。
  - ・契約書にて工事材料契約の完了が確認でき、近隣のストックヤード等で在庫確認が可能な材料は出来形数量として取り扱う。
- （４）数量総括表で一式明示した仮設工についても出来形数量の対象とできる。
- （５）出来形数量の計上方法については、発注者側に換算数量がない場合は、受注者側の当該工種に対する構成比率により出来形数量を算出してもよい。
- （６）受注者の責めに帰すべき事由により遅延していると認められる工事は、増額スライドの場合は、出来形部分に含めるものとし、減額スライドの場合は、出来形部分に含めないものとする。

## 6. 物価指数

発注者は、積算に使用する単価を用いた変動率を物価指数とすることを基本とする。なお、受注者の協議資料等に基づき双方で合意した場合は別途の物価指数を用いることができる。

## 7. 変更契約の時期

スライド額に係る契約変更は、精算変更時点で行うことができる。

## 8. 全体スライド及び単品スライド条項の併用

- （１）標準約款第 25 条第 1 項から第 4 項までに規定する全体スライド条項に基づく請負代金額の変更を実施した後であっても、本通達によるスライドを請求することができる。
- （２）本通達に基づき請負代金額の変更を実施した後であっても、標準約款第 25 条第 5 項に規定する単品スライド条項に基づく請負代金額の変更を請求することができる。